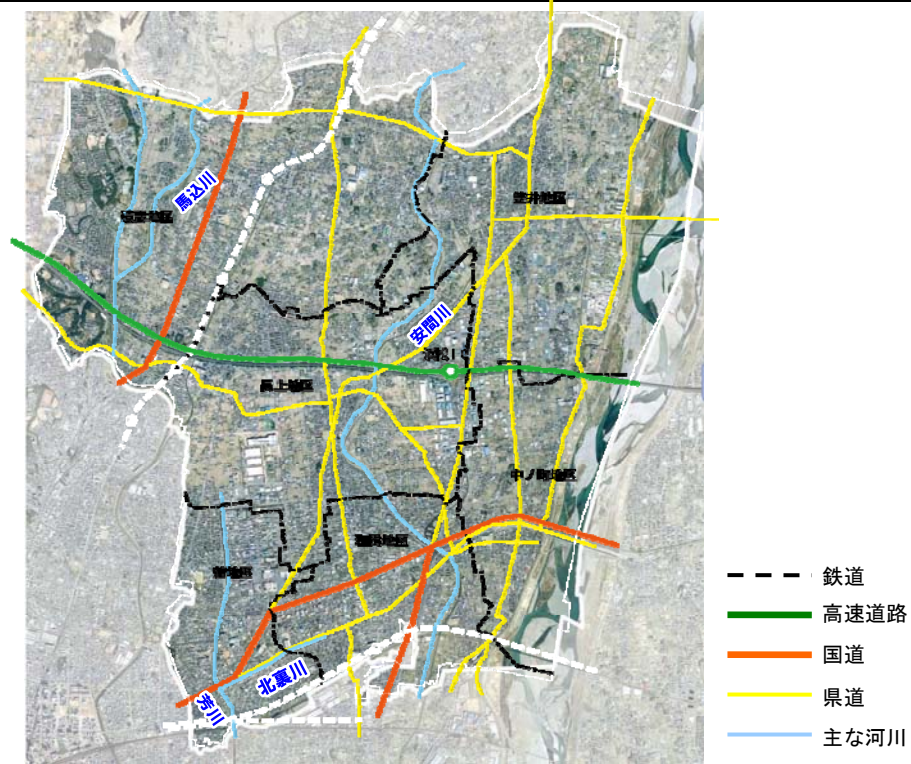


1. 東区の自然条件

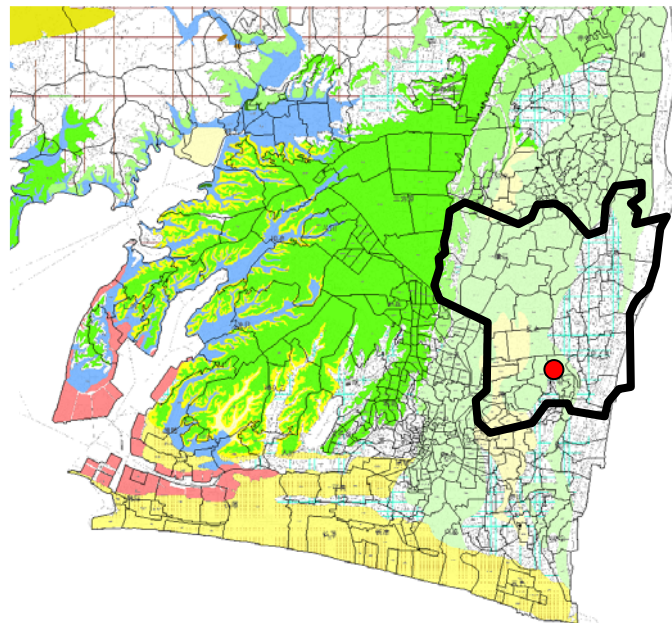
資料③

		特 徴
気 象	気 温	・年平均気温は 15.7℃と県内でも気温が高く、冬季は季節風により乾燥し晴天日が多いため、日照時間が 2,633 時間と県内最長です。
	降 雨 量	・年平均降水量は、2,153mm と県平均よりやや少なく降雨です。
	風 向・風 力	・西からの風が強く、年平均風速は 3.3m/s にも達します。
地 形		・天竜川下流部の砂礫質からなる自然堤防帯と旧河道が残る低地からなっています。
地 質		・三方原台地は砂礫層、天竜川沖積地、海岸平野は砂礫層、泥層、砂層から構成されています。



東区の主な河川

- 沖積世 埋立地
- 沖積世 泥質地盤
- 沖積世 砂泥質地盤
- 沖積世 泥砂礫質地盤
- 沖積世 砂質地盤
- 沖積世 礫～砂礫質地盤
- 洪積世 低位段丘堆積物(礫層)
- 洪積世 中位段丘堆積物(礫層)
- 洪積世 中・高位段丘泥質堆積物
- 洪積世 高位段丘堆積物(礫層)
- 洪積世 最下部洪積層
- 新第三系 シルト岩、砂岩および礫岩
- 新第三系 古第三系・白亜系
- 新第三系 古生層
- 石灰岩
- 変成岩

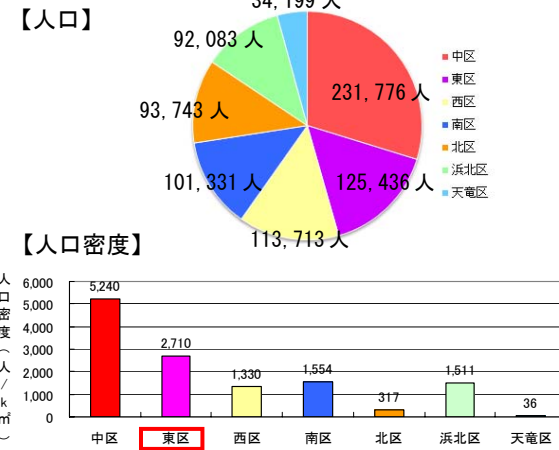


東区の地質（資料：浜松防災マップ、第三次被災想定 表層地質図）

2. 東区の社会環境

①人口・世帯

- ・東区は6地区に区分され、区全体の人口は約125,500人（平成23年10月1日現在）となっています。
- ・地区別の人口密度を比較すると、中区や南区に隣接する「蒲・和田地区」が高く、天竜川沿いの「笠井・中ノ町地区」が低くなっています。
- ・全市では2番目に人口密度が高い区です。

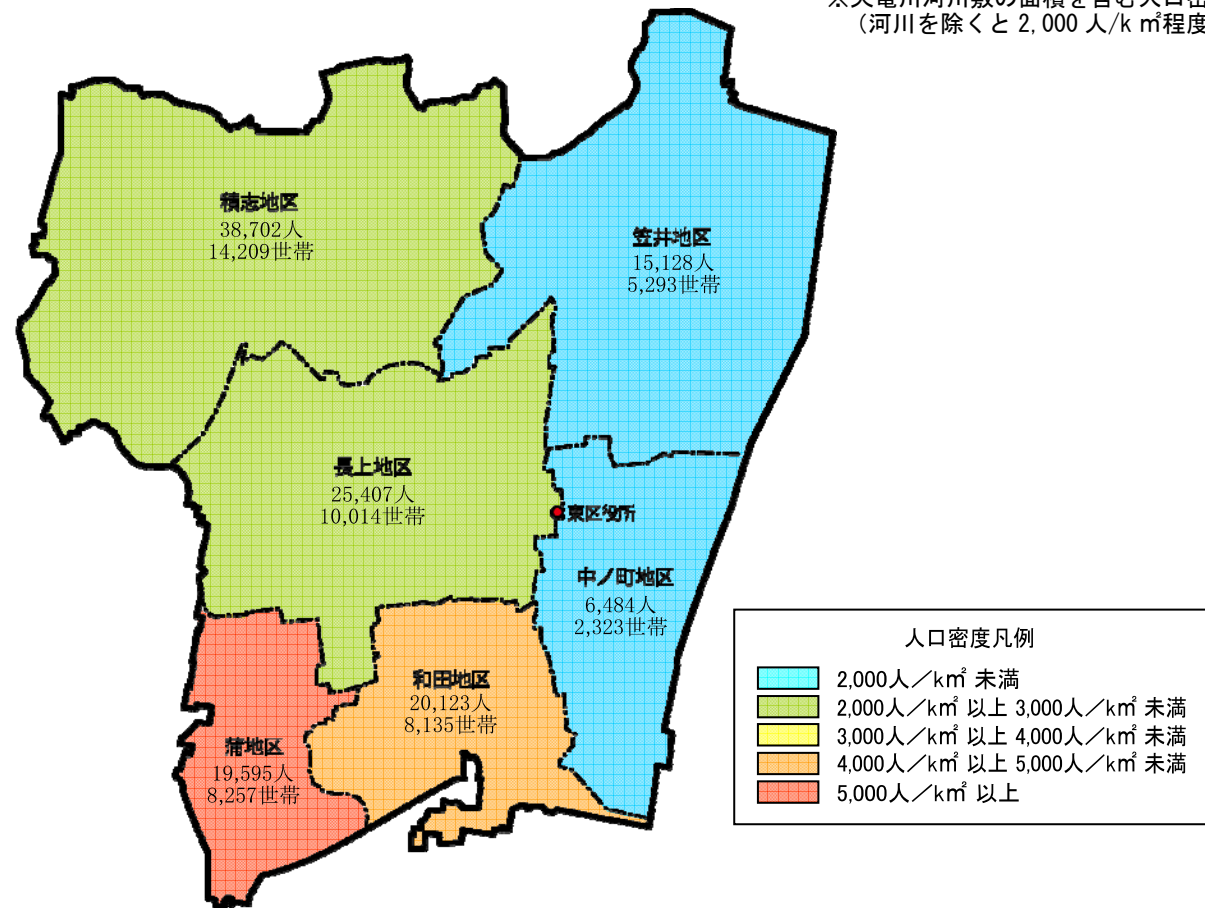


■地区別の人口・世帯数

	積志地区	長上地区	笠井地区	中ノ町地区	和田地区	蒲地区	合計	
地区面積 (km ²)	13.56	8.90	10.49	4.93	4.73	3.68	46.29	
人口 (人)	男	19,377	12,743	7,547	3,211	10,234	9,892	63,004
	女	19,325	12,664	7,581	3,273	9,889	9,703	62,435
	合計	38,702	25,407	15,128	6,484	20,123	19,595	125,439
	世帯数 (世帯)	14,209	10,014	5,293	2,323	8,135	8,257	48,231
人口密度 (人/km ²)	2,855.1	2,855.7	1,442.4※	1,314.1※	4,253.1	5,318.7	2,709.9	

(資料：住民基本台帳他 (平成23年10月1日現在))

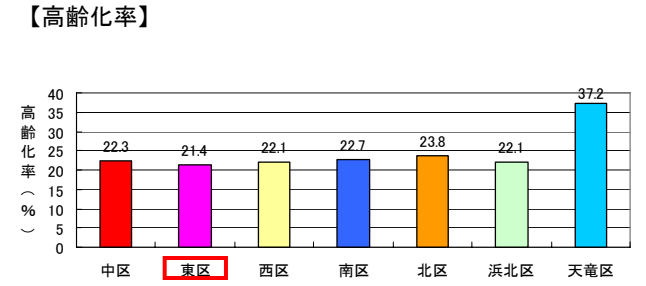
※天竜川河川敷の面積を含む人口密度 (河川を除くと2,000人/km²程度)



東区における地区別の人口・世帯数と人口密度

②高齢化率

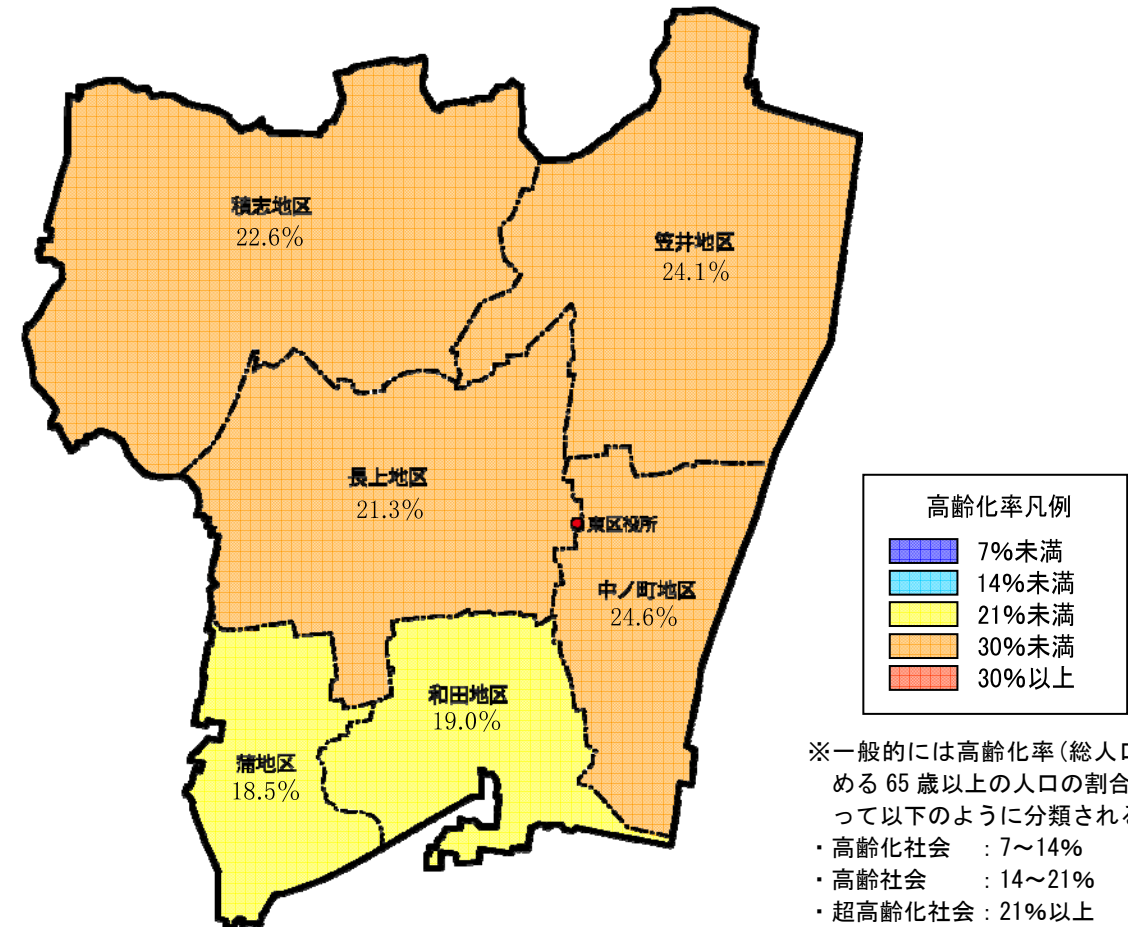
- ・東区全体の高齢化率は約21.4%で、これは市平均値 (約24.5%) を下回っています。
- ・地区別の高齢化率は、「中ノ町地区」が約24.6%と最も高くなっています。一方、人口密度の高い「和田地区」や「蒲地区」では20%を下回っています。



■地区別の年齢別人口と高齢化率

	積志地区	長上地区	笠井地区	中ノ町地区	和田地区	蒲地区	合計	備考
年齢別人口 (人)	15歳未満	5,998	3,739	2,075	851	3,000	3,085	18,748
	15~64歳	23,978	16,263	9,403	4,040	13,296	12,893	79,873
	65歳以上	8,726	5,405	3,650	1,593	3,827	3,617	26,818
	合計	38,702	25,407	15,128	6,484	20,123	19,595	125,439
高齢化率 (%)	22.6	21.3	24.1	24.6	19.0	18.5	21.4	浜松市 24.5%

(資料：住民基本台帳他 (平成23年10月1日現在))



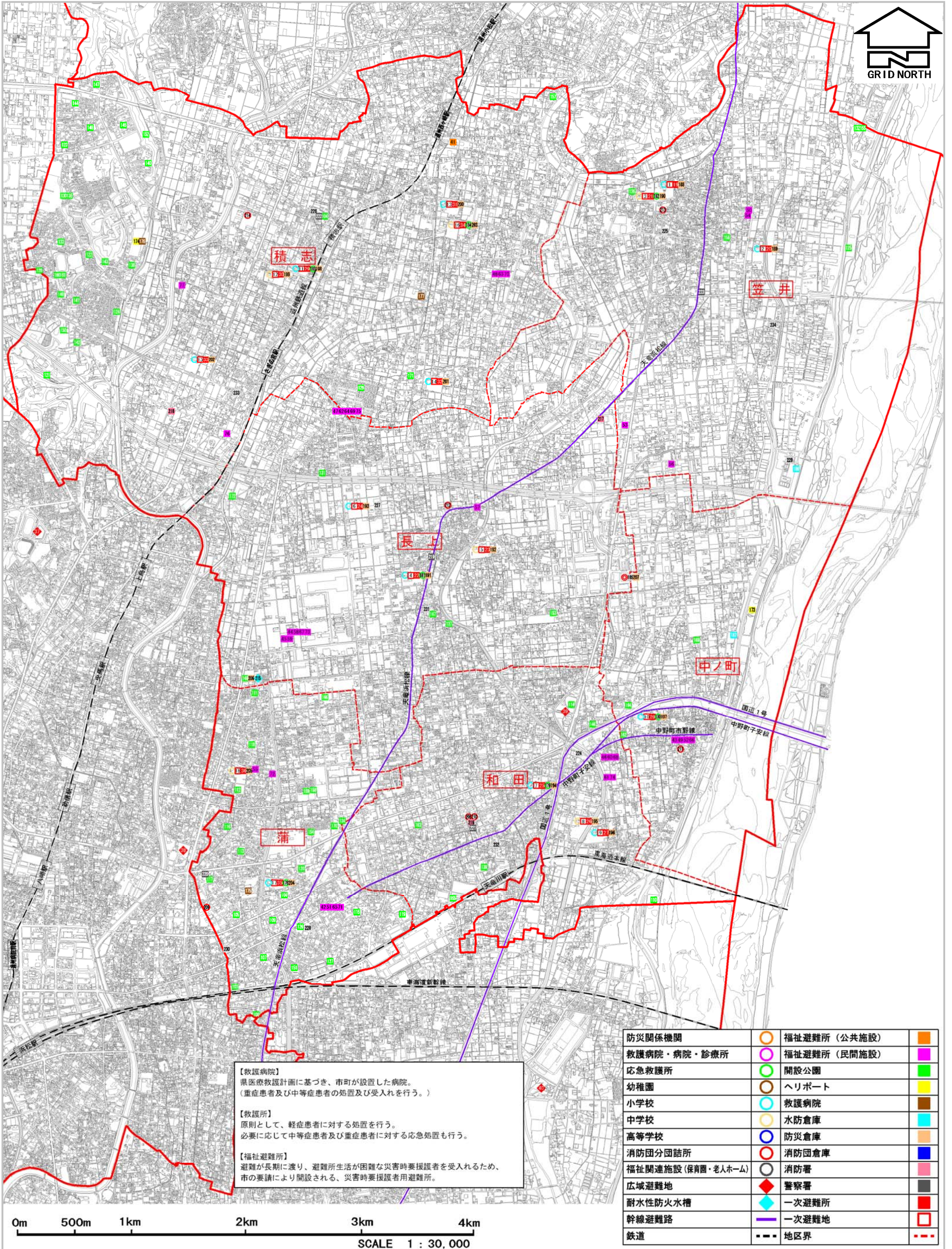
※一般的には高齢化率 (総人口に占める65歳以上の人口の割合) によって以下のように分類される。

- ・高齢化社会 : 7~14%
- ・高齢社会 : 14~21%
- ・超高齢化社会 : 21%以上

東区における地区別の高齢化率

2. 東区の社会環境 (その2)

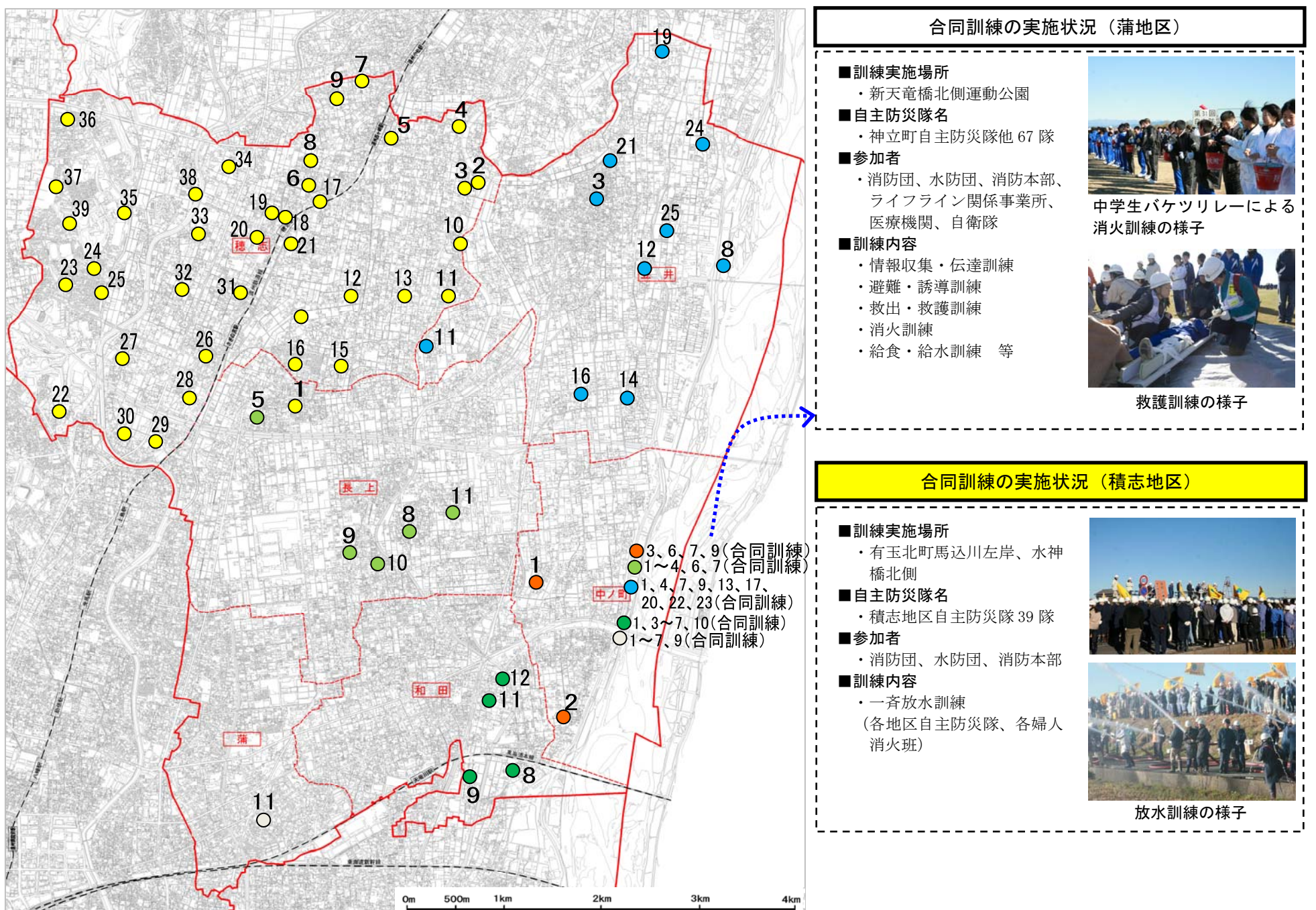
③ 災害に関する施設配置



④自主防災隊

積志	図面番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	自主防災隊名	鷺の宮団地	中郡町万斛東	中郡町万斛西	中郡町橋爪東	中郡町橋爪新田	西ヶ崎町旭	西ヶ崎町上	西ヶ崎町中	西ヶ崎町沖	大島町上大瀬	大島町上前島
	世帯数	810	251	388	305	250	285	346	311	225	485	350
	図面番号	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	自主防災隊名	大瀬町榎木	大瀬町東	大瀬町西	大瀬町中	鷺の宮北部	積志町橋爪西	積志町橋爪向	積志町吾妻	積志町松木	積志町漆島	有玉西町欠下平
	世帯数	237	192	452	225	272	480	70	115	133	400	360
	図面番号	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
	自主防災隊名	有玉西・欠下本村	有玉台	有玉団地	東畑屋	有玉南町西畑屋	有玉南町川原本村	有玉南町市場	有玉南町下村新田	有玉北町新村	有玉北町町田	有玉北町上瀬
	世帯数	987	137	256	425	212	223	210	260	348	260	282
	図面番号	34	35	36	37	38	39					
長上	図面番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	自主防災隊名	上石田町	市野町東	市野町南	市野町北	小池町	中田町	原島町	天王町東	天王町西	天王町中	下石田町
	世帯数	694	544	630	480	2,000	380	1,090	485	1,115	930	870
	図面番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	自主防災隊名	笠井上町	笠井町第一	笠井町第二	笠井町第三	笠井町第五	笠井町第六	笠井町第七	笠井町第八	笠井新田町第一	笠井新田町第二	笠井新田町第三
	世帯数	350	121	160	295	106	210	101	410	443	270	207
	図面番号	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	自主防災隊名	豊西町上	豊西町下	常光町	貴平町上	貴平町下	恒武町上	恒武町下	豊町上	豊町下	豊町西	豊町南
	世帯数	83	170	189	57	142	175	177	256	199	80	135
	図面番号	23	24	25								
笠井	自主防災隊名	豊町羽鳥	豊町倉中瀬上	豊町倉中瀬下								
	世帯数	135	42	117								
	図面番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
	自主防災隊名	松小池町	国吉町	中野町東	中野町西	中野町南	中野町北	中野町大明神	白鳥町	中里町		
	世帯数	253	279	297	379	180	98	154	218	291		
	図面番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	自主防災隊名	和田町	天竜川町	篠ヶ瀬町	北島町	薬師町	安新町	安間町	材木町	竜光町	長鶴町	薬新町
	世帯数	1,700	1,130	1,650	1,416	560	273	460	200	140	365	280
	図面番号	12										
	自主防災隊名	薬新団地										
世帯数	80											
蒲	図面番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	自主防災隊名	神立町	将監町	植松町	子安町	大蒲町	宮竹町	西塚町	丸塚町	上新屋町	上西町	子安団地
	世帯数	781	475	1,320	620	990	509	530	1,193	690	1,390	207

：活動実施場所が不明な隊

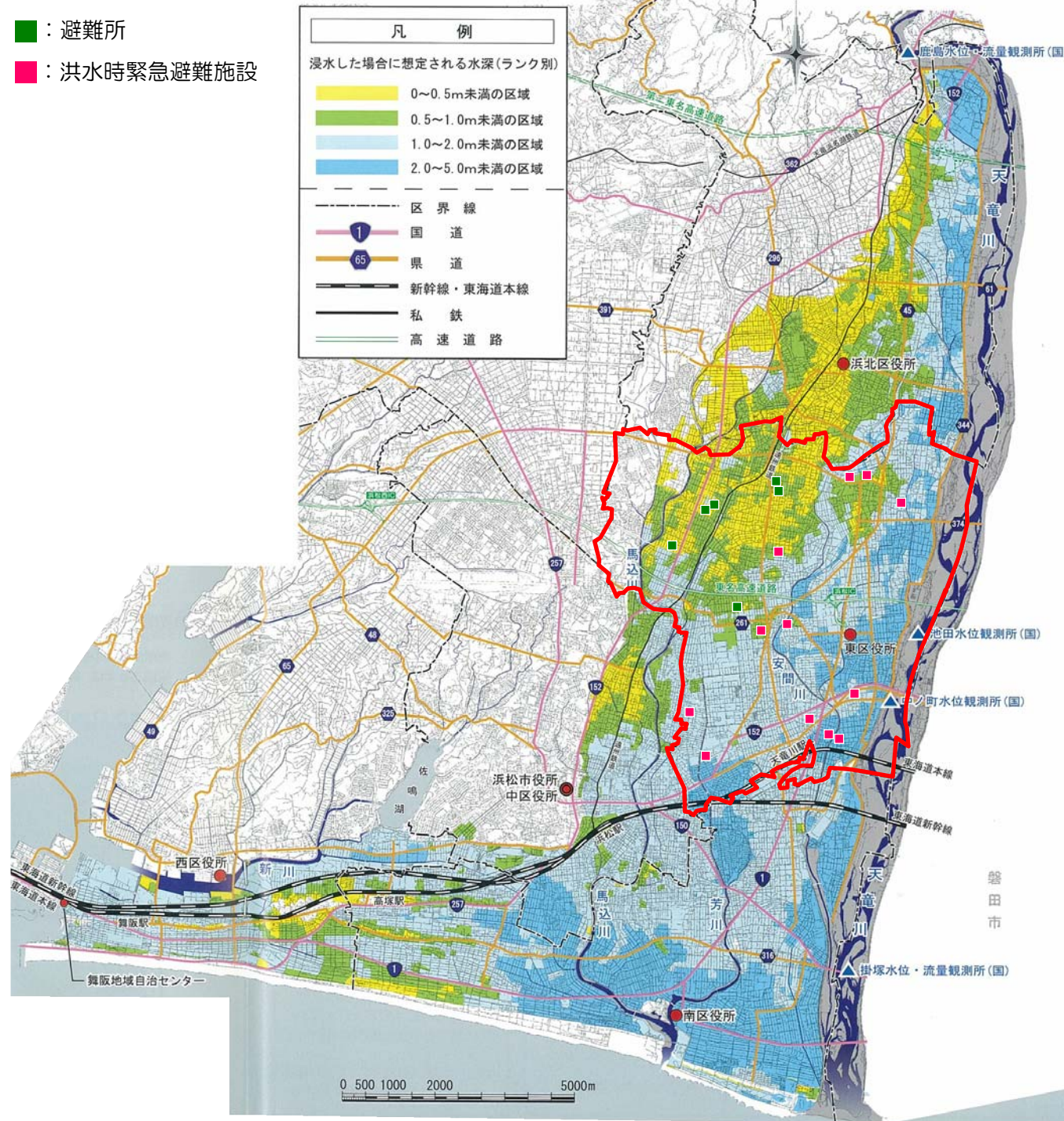


⑤ハザードマップ

【天竜川の浸水想定区域】

- ・天竜川流域でおおよそ 150 年に 1 度程度の大雨（流域全体の 2 日間の総雨量が 318mm）による氾濫を想定した場合の浸水範囲と水深は、以下のようになっています。
- ・区の北西部以外は、浸水深 1.0～5.0m と想定されています。特に安間川を境に東側が水深 2.0～5.0m の区域が多くなっています。
- ・「避難所」として 6 箇所、緊急時に 2 階以上のみ避難所として利用できる「洪水時緊急避難施設」として 12 箇所の小中学校が指定されています。

- ：避難所
- ：洪水時緊急避難施設



■避難所一覧

	名称	所在地
東区	与進北小学校	市野町2715
	積志小学校	積志町1497-1
	積志中学校	有玉北町1200
	中郡小学校	中郡町915
	有玉小学校	有玉南町614
	中郡中学校	中郡町897

・浸水しない場所、あるいは浸水しても浅い（水深 0.5m 未満）場所■にある小中学校等が「避難所」として指定されています。

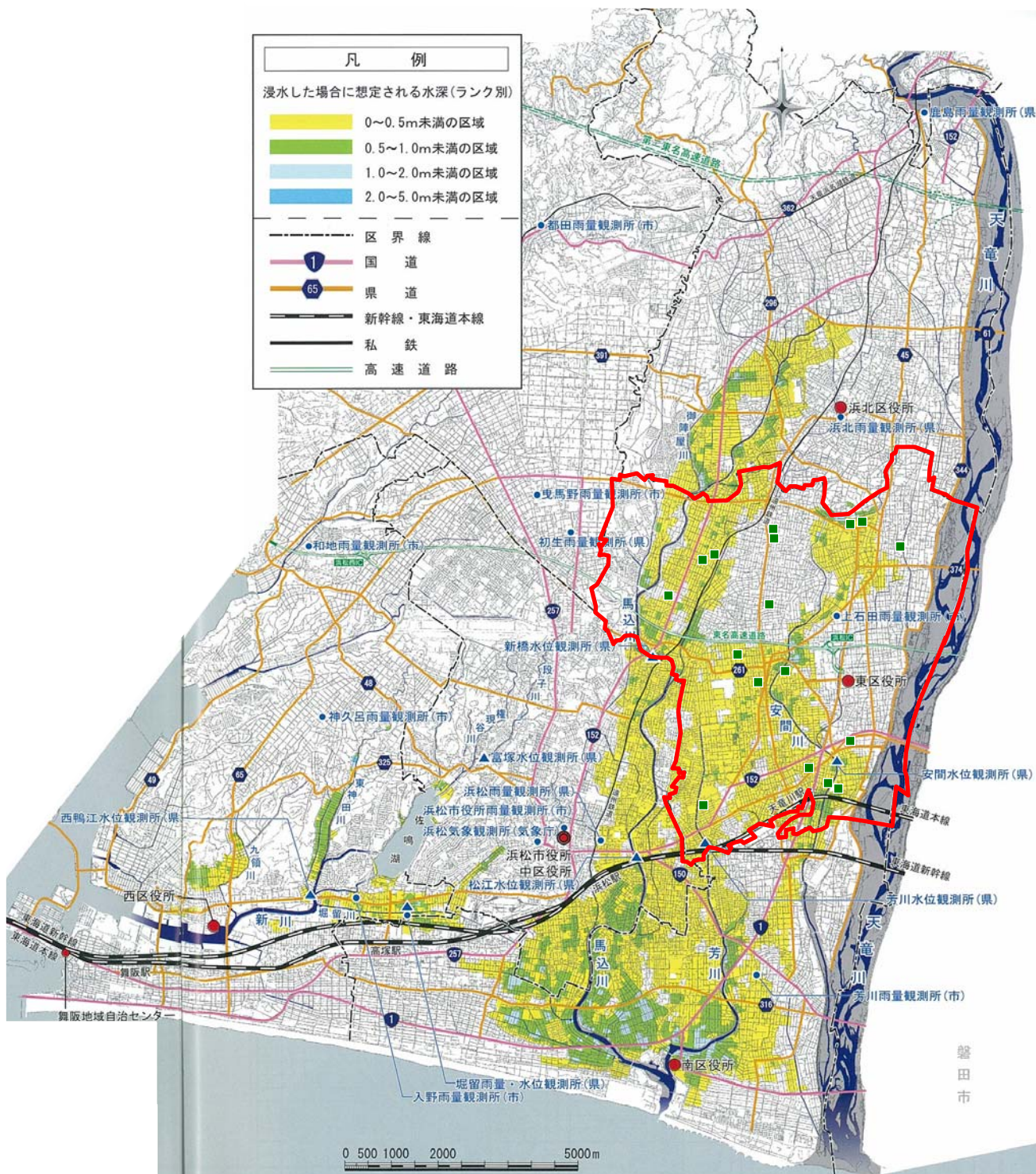
■洪水時緊急避難施設

	名称	浸水時に利用できる階
東区	蒲小学校	2 3 4
	丸塚中学校	2 3 4
	笠井小学校	2 3 4
	豊西小学校	2 3 4
	笠井中学校	2 3 4
	与進小学校	2 3 4
	与進中学校	2 3 4
	和田小学校	2 3 4
	天竜中学校	3 4
	和田東小学校	3 4
	中ノ町小学校	2 3 4
	大瀬小学校	2 3 4

・天竜川の氾濫の恐れがある場合、0.5m 以上の浸水が予想される小中学校等は避難所として使用できません。
 ・「洪水時緊急避難施設」は、天竜川が氾濫した時は浸水位が深い場所に立地しているため施設の低い階は使用できず、「避難が遅れた人が緊急的に利用する施設」として指定されています。

【安間川・馬込川・新川の浸水想定区域】

- ・安間川、馬込川、新川の3河川が大雨（安間川：63.1mm/h、馬込川：72.5mm/h、新川：65.8mm/h）による氾濫を想定した場合の浸水範囲と水深は、以下のようになっています。
- ・東区においては、安間川と馬込川の周辺において、1.0m未満の浸水が想定されています。



・浸水しない場所、あるいは浸水しても浅い（水深0.5m未満）場所□にある小中学校等が「避難所」として指定されています。

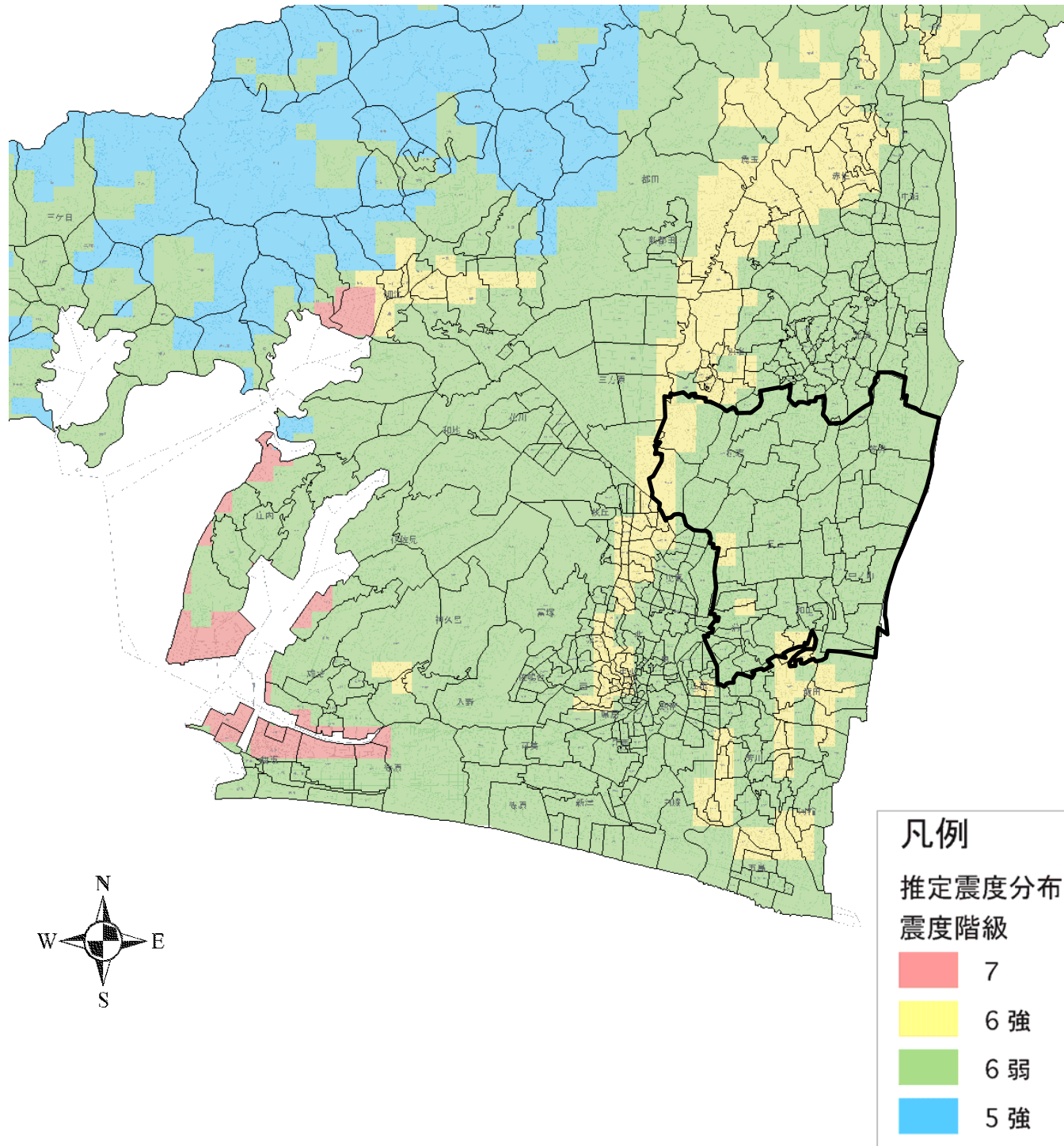
■避難所一覧

	名称	所在地
東区	笠井小学校	笠井町1050
	笠井中学校	笠井町1055
	中郡小学校	中郡町915
	中郡中学校	中郡町897
	積志小学校	積志町1497-1
	積志中学校	有玉北町1200
	有玉小学校	有玉南町614
	大瀬小学校	大瀬町2218
	与進北小学校	市野町2715
	与進中学校	市野町1405-1
	与進小学校	天王町1351
	中ノ町小学校	中野町427-1
	丸塚中学校	丸塚町1050
	和田小学校	薬師町273-2
	天竜中学校	龍光町43
	和田東小学校	安間町437-2

⑤地震被害想定（静岡県第3次地震被害想定（平成13年5月）より）

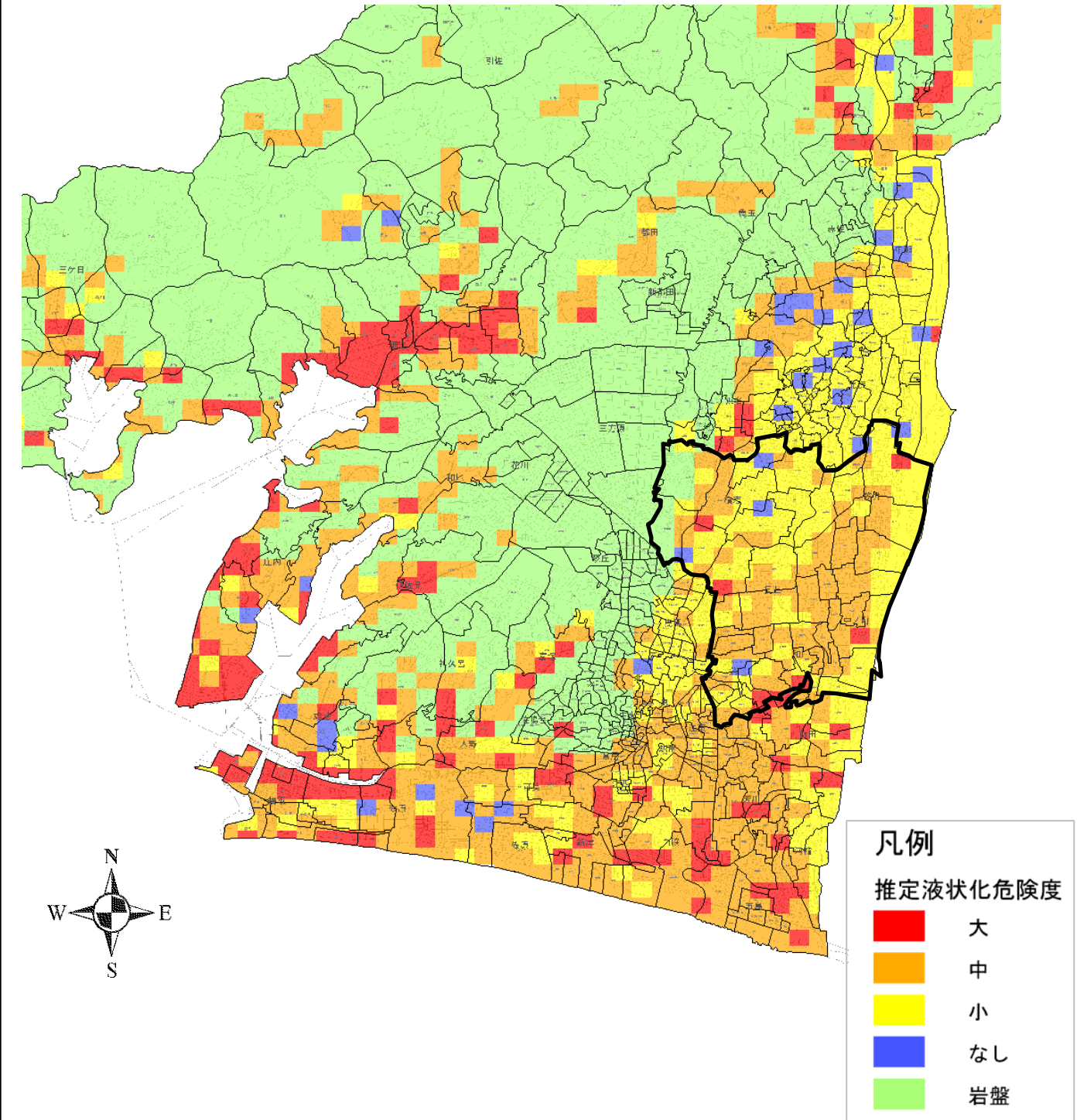
【推定震度分布】

- ・静岡県第3次地震被害想定における、東海地震による推定震度分布は下図のとおりです。
- ・西側の一部を除き、区の概ね全体で「震度6弱」と想定されています。



【推定液状化危険度】

- ・静岡県第3次地震被害想定における、東海地震による推定液状化危険度は下図のとおりです。
- ・全体的に危険度「大」の箇所は少ないですが、河川沿い（安間川や馬込川）において危険度「中」と想定されています。



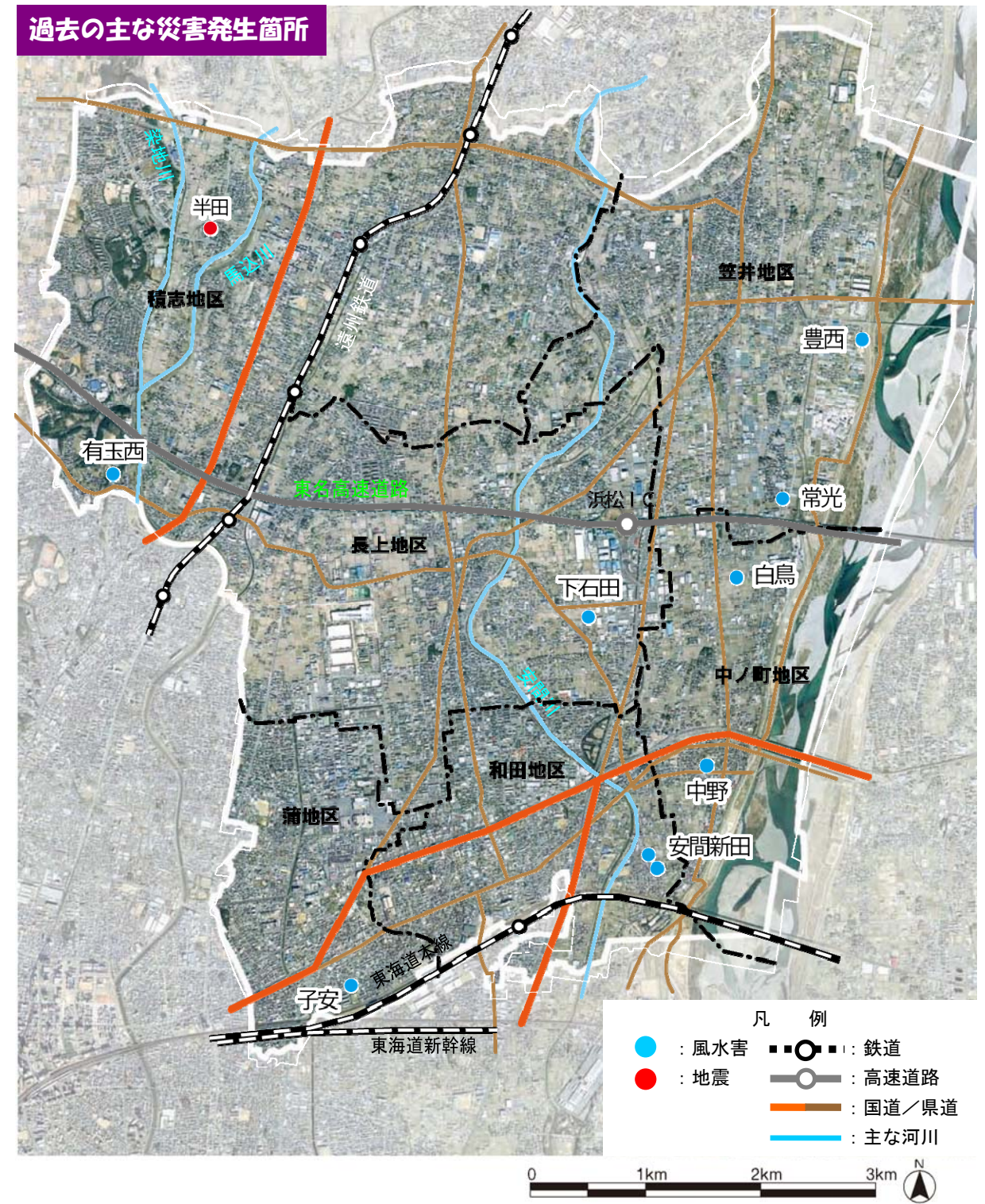
3. 東区における過去の災害履歴

- ・天竜川に隣接する本区は、台風や大雨に伴い天竜川氾濫による浸水被害が発生してきた地域ですが、天竜川上流におけるダム建設及び河川改修により、近年は洪水発生頻度が低下してきました。
- ・近年では 1982 年（昭和 49 年）の七夕豪雨を始めとし、集中豪雨や大雨による浸水が発生しています。

西暦 (年)	和暦 (年)	災 害	被 害 概 要	地震	風水害	津波・高潮	土砂災害
1498	明応 7	明応地震 (推定 M=8.0~8.4)		○			
1630	寛永 7	天竜川洪水	・安間新田(和田地区)損亡		○		
1635	寛永 12	天竜川洪水	・安間新田(和田地区)田地沼へ侵入		○		
1707	宝永 4	宝永地震 (M=8.4m)	・半田村(積志地区)で潰家 51 戸、その他の家大破、地盤沈下、地割れなど	○			
1789	寛政 1	天竜川筋大洪水	・中野町(中ノ町地区)で破堤		○		
1815	文化 12	天竜川洪水	・天竜川西岸、常光村(笠井地区)で破堤				
1841	天保 12	天竜川氾濫	・富田村から下石田村(長上地区)の間仮渡船で堤切所 334 間 ・流家 2 軒、全壊 2 軒、床上浸水 80 軒		○		
1847	弘化 4	天竜川氾濫	・富田村から下石田村(長上地区)の間仮渡船で堤切所 334 間、流家 2 軒、全壊 2 軒、床上浸水 80 軒				
1850	嘉永 3	天竜川増水	・子安(蒲地区)で堤防切れ、諸村は 40 日余水浸しになった家多数		○		
1861	文久 1	天竜川洪水	・中野村(中ノ町地区)みな亡所		○		
1854	安政 1	安政東海地震 (推定 M=8.4)	・津波が天竜川を遡り河口から 3km 上流で 4.5m に達したとされている(南区周辺と予測される)	○			
1862	文久 2	天竜川洪水	・白鳥村(中ノ町地区)で破堤		○		
		天竜川堤防所々大破	・豊西村(笠井地区)で破堤		○		
1876	明治 9	天竜川洪水	・天竜川西岸、飯田村、上飯田地内村東・河輪町・弥助新田(南区)などで破堤		○		
1880	明治 13	大雨	・川・堤防から水溢れ道路水浸し		○		
1926	大正 15	暴風雨	・浜松地方で死者 8 人、全壊 85 戸、半壊 110 戸、床下浸水 52 戸		○		
1927	昭和 2	大雨	・浜松で浸水約 50 棟		○		
1944	昭和 19	東南海地震 (M=7.9)	・積志(積志地区)で全壊 5 戸、半壊 14 戸 ・豊西(笠井地区)で全壊 1 戸、半壊 1 戸 ・笠井(笠井地区)で全壊 2 戸 ・長上(長上地区)で全壊 4 戸、半壊 19 戸 ・中ノ町(中ノ町地区)で全壊 97 戸、半壊 137 戸 ・和田(和田地区)で全壊 14 戸、半壊 20 戸	○			
1974	昭和 49	七夕豪雨	・旧浜松市内で死者 4 人、負傷者 1 人、全壊 5 戸、半壊 10 戸、床上浸水 397 戸、床下浸水 9,083 戸		○		
1982	昭和 57	集中豪雨	・旧浜松市内で床上浸水 130 戸、床下浸水 4606 戸		○		
1994	平成 6	大雨	・旧浜松市内で床上浸水 33 戸、床下浸水 444 戸		○		

(資料: 静岡県史、浜松市史、静岡県地震防災センターホームページ)

過去の主な災害発生箇所



過去の災害の状況

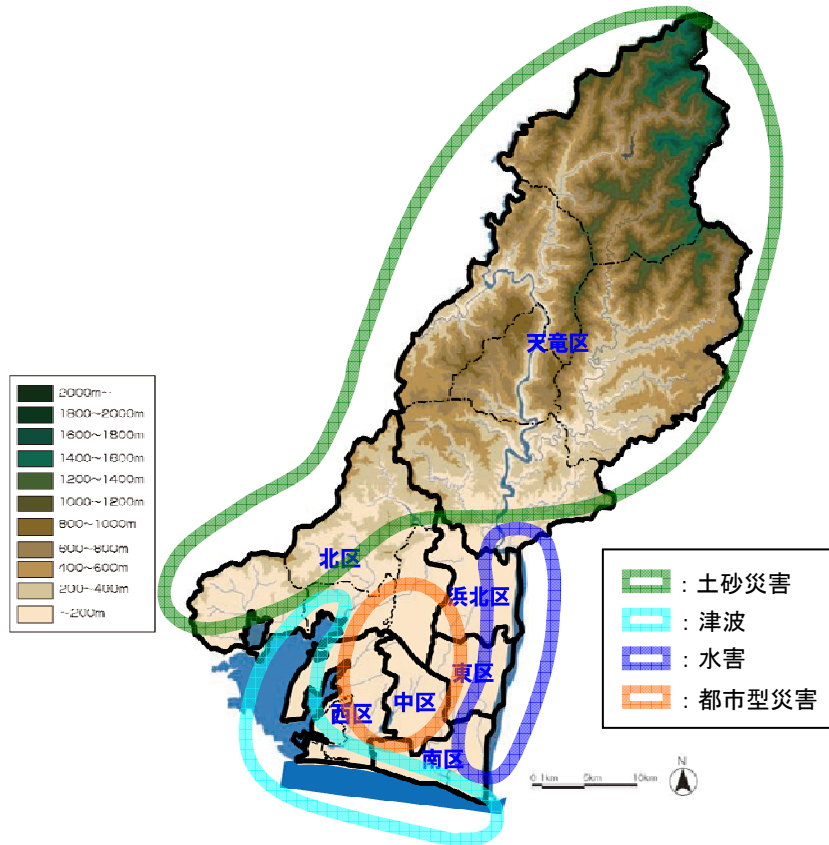


七夕豪雨時の有玉西町の様子 (S49年7月)

東区の災害特性

■ 浜松市の災害特性と区版避難行動計画策定の進め方

- ・ 浜松市の災害特性は、地形や市街地の形成過程などから、大きくは下図に示すように、「土砂災害」「津波」「水害」「都市型災害」の4つに分類されます。
- ・ 区版避難行動計画の策定にあたっては、主に区の特徴的な災害について議論しながら進めます。



【自然条件】

- ・ 天竜川の旧河道が残る低地に位置します。

【災害の履歴】

- ・ 天竜川の氾濫による水害を繰り返してきました。

【ハザードマップ】

- ・ 天竜川や安間川等の氾濫による浸水区域が想定されています。

■ 各区の災害特性一覧

区	地震	水害	津波	土砂災害
中 区	◎	○		○
東 区	○	◎		
西 区	○	○	◎	○
南 区	○	○	◎	
北 区	○	○	○	◎
浜北区	○	◎		○
天竜区	○	○		◎